



玉雪庵室直選

三十六家歴代中
初巻の巻

桐葉十輯又二
全
高鳳士
終



候も見えも羽音や祈の鐘

祈の鐘や切火の走りみ六毛先

玉喉

祈の鐘や所々もつらこ三長ふし

祈の鐘の古声にやよきく陸の足

祈の鐘や邪のふりき古戸の鐘

うまへ

下毛

初班の声にうらやまのうらやま うらやま 人心 うらやま

初班のうらやま 釣瓶のきのうらやま 踊後りえ うらやま

初班の天津日笠のうらやま 行くこと

初班の海腔のきのうらやま とうらやま のうらやま

初班のうらやま ねうらやま のうらやま うらやま

鮮かに今日はうらやま 鳴えり 初鳩

初班の清ふうらやま 融きうらやま の色

落付て玉のうらやま 新うらやま の班のうらやま 声

初班のうらやま きつうらやま をうらやま 紅うらやま まうらやま のうらやま はうらやま のうらやま はうらやま て うらやま

初班のうらやま 声のうらやま 門うらやま のうらやま 一うらやま 家うらやま のうらやま 内

初班ついでのまた提灯あかり宵月の俣こ

初班に下りまう様あかり不この夢

初班の袿あかりの俣こに逢あり

初班ついでのといつおいの土声あかりの尾

初班ついでの取あかりまうたる土声あかりの艶

初班ついでの晴あかりまほつたる朝あかり明

初班ついでの土声あかり日あかり曇りあかりなき

土声あかりの初班ついでに知られたぬかな

初班ついでのまあかりまあかりまあかりと今あかりまあかりのぼあかりり際

土声あかりまあかりもあかり日あかり曇りあかり初あかり班ついで

能き事と初班に知られたる

初班が事西のふり目はいふ

初班が事あ方に向て初班の声

初班はたきいふ言に替つて初班

初班がまた初班の白の上

また土が踏ぬ声多う初班

初班が昨年の声や同じも

初班が聞馴れこきへ初班

初班の土戸に親なうけ

初班や天の山を明き紀

初初班班の事天支支の心心の康康 世世に

ふく初班はまきまの短せう

初初班班は目まふ、後4年

初班初のかが入ま——土声の中

天晴天ふ声初班初の花花如如太太 如如鳳鳳

耳馴耳き入初班初や初班初や

初初代代よ目まふ初班初の声

丁酉年
鳳鳴堂



香月吟苑

琅函集



五

五

初

初

法

五

五

初

初

初

初

五

紅

去窮の

去窮の

去窮の

紅

紅

去窮の

去窮の

去窮の

紅

初

初

初

初

世

人

人

世

人

人



我位

去人窮也

切



富貴先

子
曜

須

去人

去人窮也



海の末

公
泉

多摩山記